

【国の動向】次期学習指導要領において、より重視する点（R7.9月「論点整理」より）

- ・「多様な子供たちの『深い学び』を確かなものに」を基本的な考え方として示す
- ・一人一人の「好き」（興味・関心）を育み、「得意」を伸ばしながら、学び全体への動機付けを図っていく取組が必要

【確かな学力の育成に向けた本県の取組】

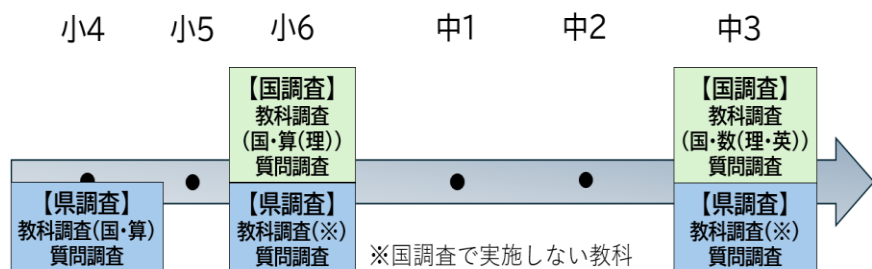
これまでの本県の取り組みを発展的に統合し、誰一人取り残すことなく、全ての子供に対して「主体的・対話的で深い学び」を通じた資質・能力の育成について、さらなる具現化と深化を図る

【現在の取り組み】

○国調査や県調査の結果を活用した指導改善

- ・学習・生活状況の全体傾向を分析し、教員が指導改善に活用できるよう、資料を提供している

※国調査：全国学力・学習状況調査
県調査：石川県基礎学力調査



○金沢大学と連携

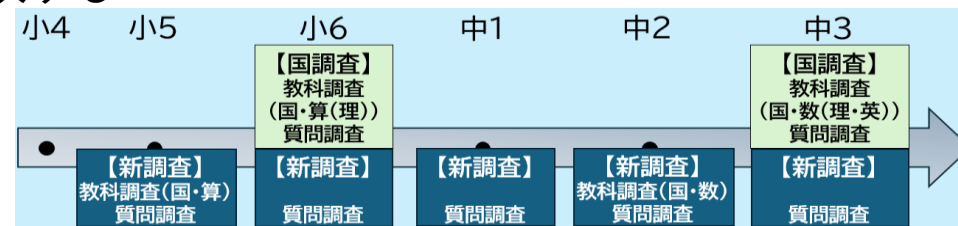
- ・国調査の結果を基に、指導事例、活用問題を作成

【R9年度からの取り組み】（R8準備）

○新調査（仮称「学び調査」）の実施（従来の県調査を変更）

児童生徒一人一人に焦点を当て、学習・生活状況を継続的に把握していくことで

- ・児童生徒一人一人が、自らの学びを自己調整することができるよう、資料を提供する
- ・教員が、個に応じた指導の改善に活用できるよう、資料を提供する



○金沢大学と連携強化

- ・国調査と新調査の結果を基に、指導事例、活用問題を作成

【効果】・児童生徒：自分の学びの変容や強み等を把握することができる

・教員：子供一人一人の長期的な学びの変容を把握することができる